

告発

足利銀行の不当な対応を許さない

シンポジウム「金融円滑化法の出口戦略を語る」での報告から

銀行の貸し手責任を問う会は6月22日に東京で「中小企業・個人の元気を取り戻す—中小企業等金融円滑化法の出口戦略を語る」をテーマにシンポジウムを開催。元金融担当大臣の亀井静香氏、元総務大臣の原口一博氏を招き、経済ジャーナリストでデモクラTV代表の山田厚史氏をコーディネーターに市場競争万能原理に対する批判、中小企業金融のあり方を議論しました。ここに紹介するのは、経営が困難になる中で必死に事業再生を試み不動産売却で再建しようとした業者が、銀行の関連不動産会社を媒介することを強要され好条件での売却の機会を逃し、さらに銀行から競売開始の通知を突きつけられたという現実の告発です。

銀行関連不動産会社と専任売買契約の強要

私は 栃木県宇都宮市でボウリング場を経営しておりますT商事のIと申します。

実は、以前にも発表したことが有り、少し重なりますがその時から状況が変わりました。

直面しているのは、足利銀行本店、足利銀行グループとの問題です。不動産売却で債務の圧縮を図ろうとしたところを妨害され、そして挙句の果てには今年の3月、競売決定の通知を送り付けられました。前会長であった私の父は心を傷めたまま4月3日に逝去いたしました。正直に債務を履行しようとした人間に対する、足利銀行の仕打ちをここに改めてご報告させていただきます。

当社は 昭和47年創業。会長の父が亡くなりましたので、今は、私と他の役員2名のいわゆる共同経営です。4店舗ありましたがリーマンショック以降、売り上げが激減し、経営が困難になり銀行からのNewマネーはストップしました。同時に、当時初代社長であった父が高齢の為会長に就任、私が会社を継ぐことになり

ました。

急場を乗り切る資金繰りのため、会長と私の給与はカット、個人資産を売却し、現預金の殆ど抛出し、銀行への返済と会社の運転資金に充てていました。

そこに、平成23年東日本大震災が起きました。会社の全施設が倒壊、被災し壊れ、営業ができなくなりました。震災は大打撃でしたが、ここで活路を見出すことにもなりました。1店舗だけ、なんとか操業できるとわかったのです。そして他の施設を売却すればかなり銀行返済が進みます。事業再建の希望が見えました。

しかしそれは、足利銀行からの、不動産売却等への圧力の始まりでありました。当社の売却物件のかなめを巡り問題が起きました。当時、コンサルタント会社と、不動産売却も含めた、役務提携を結んでおりましたが、足利銀行は、その契約を反故にさせました。足利不動産と専任媒介契約をしないと、今後の支援をしないと、明言したのです。

私にも、同じことを強要しましたが、すぐ応諾はしませんでした。なぜなら実は、別件で足利不動産の不誠実な取り組みの事実があったので 専任媒介契約は避けたかったのです。

ご存知だとは思いますが、不動産というのは、売買代金において、売り手側、買い手側からそれぞれの3パーセントの手数料が発生します。不動産業者は専任媒介契約で売り手側につけば、最低でも3パーセントは必ず得られることになります。取りはぐれることがないのです。

高額での買い手を見つけ銀行に報告 銀行担当者の予期せぬ対応

足利銀行に対し、私は、売却の件は、一般媒介契約、すなわち高い買い手さんをがんばって見つけてくれた不動産屋業者と契約します、と伝えました。すると、今後の支援体制がどうなってもよいのかと契約とを迫られましたが、私は

父、会長の体調不良を理由に契約面談を先延ばしにして避けていました。

そもそも専任媒介契約を結ばなくても不動産業者は買い付けをとる営業業務は全然できるわけです。そうこうしているうちに会長のつての不動産業者から高い金額の買い付け証明が出されました。6億5000万、しかも現状有姿でした。足利銀行の提示した売却金額ラインより1億5000万円も高値です。これなら銀行に提出した事業計画より、1億円以上も多くの返済が可能になります。

嬉しくて私は真っ先に足銀に朗報を伝えました。しかし銀行の反応はまったく違ったものでした。私は迷わず買い付け証明を受け取り、その業者と専任媒介契約を結びました。すると、銀行の担当者が、憔悴してやってきました。担当者は以下のように言いました。

「銀行はすごく怒っている」

「返せばいいって問題じゃないでしょう」

「お金の問題ではない」

「個人で言えば1億円って大きい。けれど資産4兆の銀行からすれば、1億円の為にメンツを潰されたことを容認することは出来ない。」

「足利不動産を待たせておいて、だしぬいて、足利不動産にはうちの元役員がいるし、足利不動産から横やりが入ったら終わりだ。現に足利不動産の副社長はもう取引は停止しろと言っている。」

「こちらにも似たような金額の話はあったけど、銀行の系列の不動産屋は専任媒介の契約をしないと買い付けをとってくることはできない、そういう法律がある。」これは嘘です。

「社長のつての不動産屋だと、社長に裏金が流れてるんじゃないかって思われる。」

「もう僕の手には負えない。」

「これ自体は良い話だけど…」

「どう落とし前をつけるつもりですか」

と夜まで、当社事務所で私に翻意を迫りました。足利銀行の担当者も憔悴していました。

私は高く売却し、早く返済したいだけなのに、疑われ、銀行が怒っていることが本当にショックでした。

そして、担当者はしばらく考えた後、

「銀行からの提案だということはなしにして、足利不動産に少し分け前をやってくれないか。」

「そうすれば銀行がだまる」

「正直ほかに浮かばない、銀行の勝手な言い草になるのでこちらの影をださずにうまくやってほしい」

「個人的には罪悪感があるし、本当に悪いのは足利不動産なんだけど…会社にとって傷が一番気小さく済むのはこれしか思い浮かばない。」

「銀行もこの6億の金額はそんなにすんなり出るとは思わなかったのだから」

等々いろいろ言っていました。

そして、担当行員は私に「買い付けをだした業者に連絡をとること」とあくまで私の意志で足利不動産を介入させ、業者間の面談のセッティングをするよう指示しました。担当者も上席から相当なプレッシャーだったらしく、何度も来社し、時には、夜の11時半過ぎまで粘ることもありました。

ところがです。土日も電話で、業者への連絡を指示しておきながら、いきなり「この買い付けの話はルートがおかしいので流すように」と言ってきました。「売れる金額が下がっても、銀行との関係を保てたほうがいいでしょう」と。私は混乱しました。

当時、足利銀行は上場を目指し、グループ全体の利益を上げるのに躍起になっていました。細々と御利息の支援より、不動産手数料のほうが手っ取り早く利益をあげられるからでしょう。

震災後、破算に恐怖しながら頑張ってきたのに、高い金額での不動産売却を流せとは…。これはあんまりだと思い、知人の弁護士に内容証明を出してもらうことにしました。そうすれば銀行は目をさまし、売却に応じると思っただけです。個人資金の殆どを拠出した私は、内容証明を送ってもらうのみで、それが精いっぱいでした。

しかし状況は更に悪くなりました。銀行は、弁護士を立て、私は個人で応戦することになってしまったのです。

相手方の弁護士に、私は今回の話を断られる理由はないこと、足利銀行の違法行為をやめてもらって担保解除し応じてください、と伝えました。ところが、向こうの弁護士は「銀行は違法行為と思っていない。そんなの応じられない、ハッキリ言って、銀行は競売になったってかわらないんですよ」と言いました。驚きでした。

そして数日後、当社役員を通し、銀行から、内容証明を取り下げないと話し合いに応じられない、と言ってきました。

私は早く売却を進めたかったので素直に取り下げ文を送りました。11月22日、相手方の弁護士からは、相手方の弁護士事務所での最初の話し合いがもたれました。出席者は 銀行の顧問弁護士、行員4名、当社の役員2名そして私です。この時すでに当社の役員は銀行に言い含められていたので、男性7名に対し、私は1人。全方位から糾弾されました。そして、銀行は違法行為などしていない、私のしたことは越権行為だ、内容証明を撤回し謝罪しろと命じられました。私は「独断で内容証明を送ったことは申し訳ありません。私は違法行為をやめてほしかっただけなのです」と繰り返しました。糾弾は約3時間に及びました。

銀行と顧問弁護士から呼び出され 繰り返し責められる

そこから数か月の間、足利銀行と顧問弁護士から呼び出される度に、内容証明の内容を撤回せよと難詰されました。本当に地獄でしたが、私は謝りませんでした。

ここで諦めたら、私は一方的な厳しい軍法会議にかけられA級戦犯に仕立て上げられるのがわかっていたからです。

これでは埒があかないので、金融庁に報告しました。そして約2週間後 銀行からし、あっさり、と、売るならその買い付けで売ってよい、との連絡がありました。しかし、もう時間切れ、6億5000万の話は流れてしまいました。2か月が経っていたのです。

そこから、さらに銀行からの追及が始まりました。私のような人間が社長では 銀行は支援できない、経営体制を変えろと言うのです。役員との話し合いは二転三転、決まりません。負債の多い会社を、渦中の栗を拾う者はいないのです。

年が明けて平成24年1月 銀行立会いの下、足利不動産も含む不動産業者が集まり、改めて入札の取り決めをしました。

そしていざ、入札の日。その時の買い付けは最高額でも3億円台に下がっていました。市場は冷えてしまったのです。到底返済のめどはつ

かず、入札は無効となりました。すると、またしても銀行と役員から、こんな状況を招いたのはこの私のせいだと責められ諸悪の根源とばかりに攻撃されました。

2月の終わり、面談の中で銀行は私に対し、遅延損害金を払えと言ってきました。内容証明を送ったとき、銀行は当社からの利息引き落としをストップしました。当座には引き落とし分は死守し必ずいつも充当しておいたにも関わらず、です。

役員からは、池田個人で払えと糾弾され、銀行上席は笑っていました。そして、3月までに会社の体制を銀行が納得する形にしなければ、支援体制はない、そう言いきました。私はICレコーダーを持っていましたが一個人ではなんの武器にもなりませんでした。

こちらに、弁護士を立てる余力がないと知っていて、言いたい放題。はむかう者は握りつぶすのが銀行のやり方です。彼らは ひとり生贄をつくれればよかったです。役員は、会社は破産しろと言い出す始末で八方ふさがりでした。私も限界でした。

最後の最後、すべてをなげうつ覚悟で椎名弁護士を訪ね代理人として立っていただくことをお願いしました。

すると・・・。銀行からは「弁護士を立てると話が遠くなる。一度考え直してはどうか」「遅延損害金はもういいです」と言ってきたのです。もう矛盾だらけで、他にも本当に色々なことが有りすぎましたが、とてもこの場でお伝えできません。

その後、いったんは嘘のように銀行の追及は止まりましたが、散々不動産介入と内政干渉をして会社内部を拗らせておいて、足利銀行は全くの放置でした。

椎名弁護士は、会社存続を前提とした抜本的な計画としては、まずは不動産売却で、債務の圧縮をはかるべきではあるが、役員が、会社存続に熱意がないのであれば、両家が保有している株式を買い取って会社から手を引いてもらった方が3者にとってよいのではないか、その株式買取資金は、売却代金から捻出するしかないから、それは銀行に了承してもらいましょうという意見でした。

私もそれに賛成でした。そしてこれまでの事

実を踏まえ、今後の提案をしに足利銀行に出向きました。

こちらの提案は、残債務について、①、平成23年3月すなわち震災以降、支払っていた金利は、元金に充当すること、②、不動産売却の妨害で、売却が遅れたことをふまえ、その間の金利支払や固定資産税等については、債務元本から減額すること。③、不動産売買代金から相当額を役員たちの株式買取資金の支払いにあてること、④、震災以降の金利については、利率1.10パーセントで、売却代金から銀行に返済すること、⑤、上記③、④を除いた売買代金の残金は、残債務元金への返済にすること⑥、その後の残債務については、20年の分割返済で、1.10パーセントの固定金利にすることでした。金融庁も、経営難で返済が困っている会社個人からの金利返済は、元金に充当することを指示しているので当社は被災してしまっただけです。

銀行の妨害行為で遅延した平成27年6月時点の固定資産税などは延滞金約3,500万円になりました。これも督促が来ています。そして銀行に払った平成23年3月からの無駄な利息は6,500万円以上でした。

当然の要求と考えますが、足利銀行からの答えは、すべての提案に一切応じるつもりはないとのことでした。

そして 期日までに返済計画を立てよ、さもなくば回収方針に切り替えると言いました。また、私が一人で銀行に出向いたときに、事前の連絡もなく、銀行の顧問弁護士が待ち受けていたこともありました。かつて何時間も糾弾された苦痛がよみがえり応接室を飛び出しました。銀行は つくづく圧力でケシカケルものだと痛感しました。

多くの行員は誠実に働いているが、足利銀行の不当なやり方を決して許さない

そしてとどめは、今年平成27年3月の競売開始決定の通知と督促状です。こちらは、誠実に債務を履行しようと努めてきました。にもかかわらず、問答無用に、競売手続を開始するのは、絶対に許せません。散々人を、会社を苦しめ、こちらの提案にも耳を一切貸さず、一方的に返済計画を迫られても計画の立てようがあり

ません。挙句の果てに個人と会社の当座・口座の資金凍結。卑劣な虐めです。

冷酷な仕打ちに、当時病気療養中の父会長は失意の果て、どんどん体調を崩していきました。じりじりと鉄板の上で炙られるような4年を耐え、そしてこの4月、入院先の病院で息を引き取りました。葬儀は密葬で執り行いました。

かつて足利銀行が破綻した平成15年、父と会社は、わかっているだけでも約1億2000万円以上の株式の損失を余儀なくされました。その時も、我々は騒ぎ立てることなく現実を静かに受け入れ、当時の担当行員を労い、痛みを堪えました。その誠実な経営者に対し、足利銀行のやり方がこれです。

もちろん、足利銀行にも足利不動産にも頑張っただけで真面目に従事している人がいるのは私にもわかります。多くの方がそうです。よく分かります。しかし、国からただ同然の金利で助けてもらって、夏冬ちゃっかりボーナスをいただいて枕を高くして寝ている足利銀行グループの一部の人たちには、私たちの中小企業の努力と苦しみはわからないでしょう。

私は、これまでの不当な対応を社会に訴えていくつもりです。

私のつたない報告がみなさんの参考になれば幸いです。今日は本当に発表の機会をいただきありがとうございました。